I 学校教育(第I分科会)

基本理念	基本目標	施策	事業群	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	I 個性を伸ばし生きる力を育む学校教育の推進	(1)「確かな学力」の育成	<p>①学習指導要領の着実な実施 ②言語活動の充実 ③英語教育の充実 ④小中学校一貫・連携教育の充実 ⑤ICT活用による新たな学びの推進 ⑥学力テスト等を積極的に活用した指導改善 ⑦学校における指導改善の取組への支援 ⑧学級力の向上 ⑨読書活動の充実</p>	<p>【宗形委員】 ①確かな学力の育成につながる言語活動の充実であるなら、デジタル新聞の導入のみの指標について検討する必要がある。 ②小中学校一貫・連携教育については義務教育学校の実践に基づいて取り組んでいるが、学校規模、立地条件等から考えて、市内全域が参考にするのは難しいと考えられる。 ③子どもと教師のウェルビーイングの視点から考えて、探究的な学習の取り組みは不可欠であると考えられるが、それに対する取り組みや支援がほとんど見られない。</p> <p>【武村委員】 ①校則について(該当箇所がなかったことから、ここに記載します)ワークショップでも意見が出されていたが、各学校によって校則が異なり、合理的な理由を見出しがたいものも存在する。不公平感をなくすためにも、統一的な校則を制定することを検討されたい。</p> <p>【丹治委員】 ①VUCA時代、グローバル社会を生き抜くための人間形成必要 ②デジタル教材の普及とSNSでの問題、家庭や学校で情報を扱うためのリテラシー教育を行うことは難しい。</p> <p>【難波委員】 家庭学習含めて家族の在り方やスマホについても保護者や家庭に対して指導というのはなかなか難しい</p> <p>【武村委員】 リテラシー教育のところでパンフレットを使ってとなると思うが、道徳教育も含め、本当にターゲットとなるような人たちに届くようなやり方をやらないとせっかくきれいなものを作っても本人には届かない。</p>	<p>【宗形委員】 子どもと教師のウェルビーイング、確かな学力の育成、一人ひとりに応じた居場所づくり、SDGsのいずれの視点から考えても、児童生徒が自ら選択し、学ぶ意味を実感することができる生活科や総合的な学習の時間をはじめとする探究的な学びの積極的な推進と支援が不可欠である。また、確かな学力の育成に関しては、その教科のみに特化し進めていくのではなく、長期的な視点で子どもの情意面を育てていくことが重要である。</p> <p>【渡辺委員】 ①全国学力テストの結果を踏まえ、更に学力の向上を図るための方策の検討 ②協働的な学びの促進 ③読書活動における文章読解能力、論理的思考能力の育成</p> <p>【武村委員】 私学を除き、公立小学校及び中学校の間では同一の校則を策定することも考えらえる。各校の校則を整理し、共通化することも検討されたい。</p> <p>【丹治委員】 ①コミュニケーション能力形成の取り組み ②デジタル化が進む半面、コミュニケーション能力や“考える”機会が減っていることに懸念があります。多様化する未来に向けて、人間力を形成する教育が重要と考えます。答えを出す勉強(テストで高い点数を取ることも大事だが、様々な目標や課題に対し、周囲と一緒に考えて、アイデア創出が出来るような授業も必要ではないか)と思います。 ③有識者による学校でのリテラシー教育の強化</p> <p>【難波委員】 ①情報モラル教育、リテラシー教育については大事にしていく必要がある。 ②学力について今後新しい技術なども考えていかなければならない</p>
		(2)豊かな心と豊かな感性の育成	<p>①道徳教育の充実 ②伝統・文化等に関する教育の推進 ③音楽を通じた豊かな感性や情操の養成 ④環境教育の推進 ⑤キャリア教育の充実</p>	<p>【宗形委員】 キャリア教育に関して職業教育に関する内容がほとんどであり、広い意味でのキャリア教育が捉えられていない。</p> <p>【丹治委員】 学校だけでなく、地域一体となった教育環境が必要</p>	<p>【宗形委員】 中学校の職場体験については、見直しが必要である。生徒が「自己の生き方を考える」ことができる内容・方法となっているかという視点で問い直すことは、キャリア教育の一端を担うものになると考える。</p> <p>【丹治委員】 フィールドワーク、体験授業の取入れ</p>
		(3)健やかな体づくり	<p>①体力向上のための学校体育の充実 ②食育の推進と学校給食の充実 ③健康教育の充実</p>	<p>【渡辺委員】 各学校では生徒数による部活動の設定数が限定されていると思われ、やりたい競技があっても出来ずに、別の競技にいかざるを得ない状況があるのではないか。</p> <p>【丹治委員】 体づくりや健康の重要性を学ぶ教育を充実させるべき</p>	<p>【渡辺委員】 大きな地域単位で活動が出来ないか。また、大会等への参加が可能になるように、学校教員の関わり方の整理。</p> <p>【丹治委員】 部活動などの地域移行を推進</p>

I 学校教育(第1分科会)

基本理念	基本目標	施策	事業群	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	個性を伸ばし生きる力を育む学校教育の推進	(4)特別支援教育の推進	①個に応じた指導の充実 ②支援体制の充実	<p>【橋本委員】 市民意識調査結果報告書5ページ 参考(主な意見)②不満 「発達障がいのある児童への対応が不十分であると感じる。」とある。そのため、特別支援教育の推進において、「個に応じた指導の充実」の事業で、特別支援教育派遣事業があるが、学校から補助員配置要求に完璧に応えられない状況である。 それらのことと文部科学省「令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)」から、教員の特別支援教育(発達障がいの特性の理解と対応等)についての資質と能力を向上させていく必要があることから、より一層の研修の充実が求められている。また、担任や補助員のみに対応を強いるのではなく、校長のリーダーシップの下で、学校全体で支援体制を構築して、対応していく力をつけていくために、特別支援教育アドバイザーの派遣の充実と、その経験を生かして、各学校が自分で支援体制を構築して対応している資質と能力を身につけていけるようにしていくことが求められている。</p> <p>【丹治委員】 支援員のスキル向上</p> <p>【難波委員】 各学校すべての支援補助教員を配置できない状況ということが一番の悩みではある。</p>	<p>【宗形委員】 スクールカウンセラーや指導員の配置等支援が必要な児童生徒に対する手厚い支援をさらに進めていく必要がある。</p> <p>【橋本委員】 教員の特別支援教育についての資質と能力を向上させることによって、認知の特性の理解、非認知についての理解等が進み、ユニバーサルデザインの学級経営と授業づくり等につながると考える。そのことが、学力向上、不登校の未然防止、いじめの未然防止につながっていくと考える。</p> <p>【丹治委員】 ①研修の充実化 ②ユニバーサルデザインの授業環境整備</p> <p>【難波委員】 今後、さらに児童生徒の不登校の減少を図っていく必要性がある。</p>
		(5)教職員の資質向上	①教職員研修の充実 ②学校マネジメント力の向上 ③メンタルヘルス対策の推進 ④わかる・できる授業づくりの推進	<p>【宗形委員】 わかる・できる授業づくりとはどのようなものなのかを今求められる教育のあり方と照らし合わせて再考する必要があるのではないかと</p> <p>【丹治委員】 教職員の負担軽減およびメンタルサポート</p> <p>【橋本委員】 認知の特性に応じた指導というのが先生方にとっては理解する必要があり、指導方法についての研修の充実</p> <p>【難波委員】 年代に応じた研修も必要になってくる。</p>	<p>【宗形委員】 ①探究的学習における授業づくり、そのための児童生徒を支える教師の在り方についても積極的に研修する必要がある。 ②個別最適な学び・協働的な学びに関して、研修の機会を積極的に設けると共に、モデル校を設定するなどして市として指針を示し、推進していく必要がある。</p> <p>【丹治委員】 ①研修環境の充実化 ②地域や他校との交流機会創出</p> <p>【難波委員】 道徳教育やいじめ、不登校など、どの分野をやっていくか考えなければいけない。その裏にあるのは教職員の質の向上ということで、教職員の研修、授業力など質の向上をしていかなければいけない。</p>

I 学校教育(第1分科会)

基本理念	基本目標	施策	事業群	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	2 家庭や地域と一体となった豊かな教育環境の形成	(1)どの子も思う存分学べる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①指導体制の充実 ②不登校の児童生徒等への支援強化 ③少人数教育の充実 ④就学支援の充実 ⑤被災した児童生徒の生活・学習環境の整備と心のケア ⑥教育相談体制の充実 ⑦いじめの未然防止と早期発見・対応強化 ⑧帰国児童生徒・外国人児童生徒等への教育の推進 	<p>【宗形委員】 いじめに関しては、郡山市に限らず認知件数が増えているため、今後も積極的な取り組みが必要である。</p> <p>【武村委員】 ①不登校生徒が増加傾向にあるようであるが、その要因は分析できているのか。いじめの認知件数が増加傾向にあるのは、いじめの定義を明確化し、積極的に認知を進めている結果であり、必ずしも深刻ないじめが増加しているとはいえないが、不登校についてはなぜ増加しているのかについて、検討が必要と考える。検討されているのであれば、その内容をご教示いただきたい。 ②いじめ電話相談窓口が設置されており、到達度も高く評価されているが、実際に相談窓口対応弁護士である当職としては疑問がある。相談件数はほぼ0であり、まれに1件あるという程度であり、利用が進んでいるとは思われない。広報のあり方、日時の指定のあり方、LINEなど別ツールの検討など、課題は多いのではないかと。 ③学校内でトラブルが発生した場合(いじめ、学校事故、保護者対応など)に、早期に弁護士等に助言を受ける体制が整備されているのか。スクールロイヤー、アドバイザー、顧問弁護士など様々な制度設計が考えられるが、学校現場の需要に対応できているのか。</p> <p>【丹治委員】 ①全国の不登校(小・中)29万人※2023.10月 →原因も多様化、複雑化している ②ヤングケアラーの対策(子ども総合支援センター)</p>	<p>【宗形委員】 いじめの未然防止や早期発見・対応強化に関しては、子ども自身はもちろん、教師、保護者、地域も含めて子どもの人権や「子どもの権利条約」に関する理解を深める必要がある。特に差別されない権利(第2条)や自己の意見を自由に表明する権利(第12条)を理解することはお互いを尊重する上でも重要である。</p> <p>【武村委員】 ①不登校の原因分析に応じた具体的な対策をとることが求められる。(オンラインの活用、フリースクール、夜間学校の活用など) ②広報のあり方、スケジュール、LINEなどの別ツールの利用などを検討されたい。LINE相談については、弁護士会でも試行的に実施しているが、一定のニーズを把握している。今後常設化に向けて準備を進めているところであり、市と協力できるのであればありがたい。 ③学校内トラブルの初動対応の誤りなどによって紛争が拡大している事例が散見される。早期に法的助言を得るための体制づくりが必要と考える。生徒、教師、管理職が利用しやすい形を検討されたい。</p> <p>【丹治委員】 ①「メタバース登校(学研)」などの活用 参考：https://www.889100.com/column/column108.html ②タブレット活用した子どもの可視化ツール (自分の気持ちを毎日★の数でチェック) →小さな変化に気づく ③公民館での相談 ④スクールカウンセラーの配置 ⑤医療機関との連携</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ①地域を生かした教育環境の充実 ②地域住民の学校運営への参画の推進 ③学校施設の社会開放 	<p>【丹治委員】 教育が『学校任せ』になっている</p>	<p>【宗形委員】 全校がコミュニティスクールであるということを生かし、教育活動への協力や子どもが地域と積極的に関わり大人に影響を与えていくという双方の取組を進めていく必要がある。</p> <p>【丹治委員】 保護者の地域活動への参画→地域コミュニティも生まれる</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ①校舎や屋内運動場等の整備 ②教材や設備等の整備 ③学校図書館の充実 	<p>【丹治委員】 デジタル環境の充実</p> <p>【高橋委員】 小中学校校庭の芝生化の可能性</p>	<p>【丹治委員】 デジタルに触れる機会の創出</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ①通学路の安全点検と対策の検討・実施 ②児童生徒の防犯対策 ③地域・関係機関との連携 ④学校における放射線対策の充実 ⑤防災教育の推進 	<p>【丹治委員】 地域連携(地域密着)</p> <p>【難波委員】 ①防災教育の推進については、南海トラフ地震も含めて考えていかなければならない。 ②放射線対策の事業は、これからも続けていくべきなのか検討が必要 ③自転車のヘルメット着用率も重要である。</p>	<p>【丹治委員】 子どもたちと向き合える(触れ合う)時間作り ※地域の子供は地域全体で守る</p> <p>【難波委員】 防災教育の推進については、自然環境の変化、急なゲリラ豪雨等、新しい災害の対応も子どもたちに身に付けさせる力となる。</p>

I 学校教育(第1分科会)

基本理念	基本目標	施策	事業群	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	2 家庭や地域環境と一体となった豊かな教育	(5)時代に対応できる教育体制に向けて	①SDGs理解と推進のための教育 ②児童生徒と向き合える環境づくり ③ICT環境の整備と国際化の推進 ④通学区域の弾力的運用 ⑤土曜日等の教育環境の充実	【宗形委員】 SDGsの理解と推進のための教育については、実際の児童生徒の実践として進めていく必要がある。 【丹治委員】 デジタル活用の推進 【難波委員】 ①児童生徒数について、郡山市内では富田東小などは1,000人に迫るところもあれば、小さい学校だと20人程度で地域格差がある。中学校も単学級で部活動もなかなかできないような状況もある。 ②保護者等からの電話が我々の勤務時間後にかかってくるが多く、働き方改革をどうしていくのか、さらには教職員の成り手がいない。先生方がメンタルを害する相談も多いので、スクールロイヤーも検討すべき。	【宗形委員】 児童生徒と向き合える環境づくりのためには、様々な施策について、すべての学校で推進すべきこととそれぞれの学校で選択できることに分けるなど学校に余裕が生まれるような支援が必要である。(SDGsに関しても同様であり、積極的に実践したい学校を募集し、進めていく) 【渡辺委員】 教育DX化や校務DX化の促進を図り、児童生徒と向き合える時間の確保 【丹治委員】 ①「校務支援システム」などの活用 ②研修の充実化(教職員のスキルアップ) ③オンライン環境の整備(会議、面談、相談など) ④ペーパーレス化推進 ⑤ごみ削減の実践(学校でのごみ分別など) 【難波委員】 家庭とどのように関わっていくのか。家庭からの要望がある中で、どのように応えていくのか大事になってくる。
	3	(1)幼児期における教育の質の向上	①幼稚園における教育の質の向上と保護者負担の軽減 ②幼保小連携のさらなる充実と強化 ③幼児教育・保育施設の特性を踏まえた取組の推進		【宗形委員】 幼保小連携から幼保小接続へと進めていくことができるよう、お互いの保育・教育に関して子どもの姿に基づく理解の場の設定や子どもの思いに基づく交流活動など幼児教育における育ちを小学校へしっかりとつなぐことができるような取組を進める必要がある。 【丹治委員】 デジタルの活用
		(2)私立学校の充実	①私立学校への支援 ②市立学校と私立学校の交流促進		【渡辺委員】 ①県立中学校も含めた市立・私立の中学校の交流促進 ②尚志高校の場合、県内の各中学校からの単位制・通信制課程への進学者が、本校入学者の7割以上を超える生徒が入学してきます。この課程への進学理由は、不登校によるもの、中学校の時の欠席が多い、体調に不安がある、経済的理由などが殆どになります。このような理由がある生徒も高校に入学し、卒業する頃には、それらを克服してかなりの生徒が進学や就職などで社会に出て行きます。現在は通信制課程高校が多様に変化しており、学び方が様々です。生徒やその保護者が義務教育後の進路(様々な受け入れ先)に不安を持たないような支援の仕方が重要になります。 【丹治委員】 オンライン環境の整備(会議、面談、相談など)

I 学校教育(第1分科会)

基本理念	基本目標	施策	事業群	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
		(3)高等教育機関との連携	①高等教育機関への支援 ②専門的人材の活用		<p>【丹治委員】 連携による授業支援</p> <p>【難波委員】 幼稚園、高校の子どもたち、大学などすべての機関と関わり合いながら、義務教育を行っていくことの大切さ</p>
			学校教育全般に関すること	<p>【丹治委員】 ①ネット社会と言われる中で、リテラシーや基本的なルールを学べる授業が必要。 →先生だけでは対応できない部分も多い →ネット依存による孤立化が増えている(コミュニケーション能力の低下や人間力形成における弊害となっている) ②グループワークについては、学校でもっと広げていただきたい。割と積極的な考えを持っている生徒さんだけで終わってしまうと次につながらないと思っていたので、みんなで参加できるようなグループワークにしていければ。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①7月31日の中学2年生のユースワークショップは、初めての友達でグループを作り、何が問題化をとらえ、それぞれが解決策を出し合い、煮詰めまとめる。この方法は、きっとどの学校でも実施されていると思います。特に、自己肯定感の低い、控えめな日本人に多い傾向が見られますので、well-being意識化の中で高めたいものです。 ②well-beingを、学校だけでなく市内に、具体的な用例を通して、誰もが前向きに広げられることがとても望まれます。これも広報「こおりやま」や「公民館だより」かな。</p> <p>【難波委員】 第4期計画の中で、生徒たちが計画を見た時に、自分たちのワークショップでの提言や議論したことが活かされたんだと見える形することが重要</p> <p>【武村委員】 校則について、学校によって変えなければいけない部分はあるが、例えば、服装等は大きく変わる部分はないので、統一基準を設ける余地はあるのかなと思います。不公平感が生まれにくいような校則づくりをしなければ、だんだん納得感が得られなくなってきて、少し学校に不満を持ってくるようになってしまう。</p>	